

平成25年度香川大学大学院修了式 学長告辞

本日、香川大学大学院から学位を授与された271名の皆さん、誠におめでとうございます。また、長い間さまざまな面で支えてこられたご家族の皆様にも、心からお慶びを申し上げます。

この日を迎えるまでの間、皆さんは、指導教員のもと、日々厳しい研鑽を続けてこられたと思います。時には、挫折しそうになったこともあったでしょうが、それらを乗り越え、それぞれの専門分野において自立して研究をすることができる確かな力を得たからこそ、それが学位授与という形で実を結ぶことができたわけですね。

これからは皆さんが習得した研究成果を、いかに社会に生かすかを考えなくてはなりません。

英政府主席科学顧問であるマーク・ウォルポート氏は科学と市民の関係について、新聞紙上で次のように述べています。

“英国では一般に、科学と社会の関わり的重要性が広く認識されている。関わり方も、科学者から市民への一方通行ではなく、双方向の議論や質疑が基本になると考えられている。科学者は、人々がどのような価値観で世界を捉えているか理解し、率直な議論をしなければいけない。コミュニケーションは非常に難しい。それでも、研究成果を市民に伝えるまで、科学者の仕事は終わらないのだ。

英国や日本のような政府が重要視するのは、国民の健康と経済であろう。どちらにおいても、科学技術が占める役割は大きい。アイデアを知識に、知識を社会に役立つ物に変えていくには、分かち合うことが必要で、透明性を忘れてはならない。人々は科学に魅せられている。ヒッグス粒子やiPS細胞が良い例だ。様々な手法で情報発信し、社会全体で考えることを続ければ、科学技術と社会は良好な関係を築けるだろう”というものです。

氏のこの意見は、学位を取得した皆さんが、これからの社会とのかかわりを考えるのに、大変示唆に富むものと思います。そして、皆さんが科学者として、苦勞して得た研究成果を、これからの社会に役立てようと一歩進んだ夢を持って欲しいの

です。皆さんそれぞれの分野で、常に市民や社会に対して成果を問い、評価を受けて下さい。そして、社会を変革させる(イノベーション)大きな夢を見続け、様々な困難や障害に負けることなく、夢に向かって最大限の努力を続けてほしいと思います。

皆さんは研究生活の中で、批判力や新たな評価基準を育んできたと思います。それは、これからの人生において、どのような方向に進むのが正しいかを判断する時に、大いに役立つと信じます。

香川大学において学位を授与された皆さんが、大きな自信と希望をもって社会で活躍されることを心から期待し、私からのお祝いの言葉といたします。

平成26年3月24日

香川大学長 長尾 省吾